

令和4年7月25日

特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議(第12回)審議のまとめ(素案)に関するヒアリング

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会
副会長 玉野 麻衣
(東京都大田区立調布大塚小学校長)

1 教育環境のあるべき姿について

- どこにいても、どのような学習をしていても、「学級の一員である」、「自分は大切にされている」とすべての子供が実感できる、安心できる居場所づくりを最優先に学校・学級経営ができること。
- 本人、保護者、学校がよく話し合い、修正しながら本人にとっての学びの在り方について模索し、学校外の機関へのアクセスも当然の学級経営を進めることができること。
- 特別支援教育における現行の取組が参考となること。

2 今後取り組む具体的な施策について

①周知・研修の促進

- 現在の特別支援教育と同様の理解促進
- 教員養成課程からの継続した研修
- 学校での気付きからアセスメントのための連携方法
- 学校外の機関へのアクセス方法

②多様な学習の場の充実等

- オンライン環境や関係機関と連携する際に中心となるコーディネーター等の人的環境が整っていること、これらを支える専門家等の支援等、学級経営を支える総合的な環境

③特性等を把握する際のサポート

- 学校内外の組織的・計画的な切れ目のない支援
- 個別のアセスメントと専門機関へのつなぎを学校職員で推進するのはかなり困難なため、一律に相談できる機関やつないでもらうための仕組
- 子供や保護者の願いや希望、それを修正・変更できるヒアリング場面などの枠組（本人の意思や願いを飛び越えた周囲の思惑に引きずり込まれない安全弁）

④情報集約・提供

- 子供の選択肢を広げるための学校外の機関の充実
- 日本中どこにいても高校や大学、企業等と連携した取組による学びを享受できる仕組
- どの分野での「特異な才能」かの見立てやその分野の伸張に資する専門家へのつなぎは通常の学校職員で推進するにはかなり困難なため、一律に相談できる質の高い機関
- 都道府県・市町村教育委員会による学校と関係機関の連携調整機能の向上

⑤実証研究

<検証すべきこと>

<学校内での取組に関すること>

- 校内の組織体制に基づく計画的な支援の在り方
- 学校や家庭、地域、関係機関等でのポートフォリオの進め方
- 才能を伸ばす学びと集団での人間関係の学びの両立の在り方
- 必要な人的配置、学習環境
- 多様性に応じながら充実した教育を提供できる教職員にとってゆとりのある教育環境

<学校と学校外との連携に関すること>

- 学校と関係諸機関とをつなぐコーディネーター機能とサポート体制
- 取組全体を掌握・推進する機関の明確化
- 進路や就労先での効果や課題

<児童生徒を取り巻く環境の整備に関すること>

- 就職にあたっての地域社会の認識の醸成
- 大学や研究施設から遠く離れている地域での多様な学びの場づくり

<留意点>

- 本人にとっても周囲のためにもその特異な才能が発揮されるという視点
- 特別支援学級に在籍もしくは、通級による指導を受けている本人及び保護者の思いに寄り添った慎重な対応